

2020年度 防災教育 交流フォーラム



Disaster Management Education Networking Forum

新型コロナウイルスの防災教育
新たなまなび・続けるまなびのチャレンジ

防災教育チャレンジプランは、
2020年度防災交流フォーラムの
一部をぼうさいこくたい2020と
連携して開催します。

ぼうさいこくたいとは？

ご家族連れから専門家まで
幅広い方が防災を学べる
日本最大級の防災イベントです。

2021年度
防災教育チャレンジプラン
募集中
11月30日(月) 締切

日時: 2020年10月3日(土) 11:00 ~ 12:30
2020年10月4日(日) 10:00 ~ 12:00
会場: オンラインにて開催

10月3日(土)は、防災教育行政関係者による基調講演と防災教育各分野の代表者による意見交換会、
10月4日(日)は、2020年度防災教育チャレンジプラン実践団体の活動中間発表を行います。

www.bosai-study.net

主催: 防災教育チャレンジプラン実行委員会、内閣府(防災担当)、国立研究開発法人防災科学技術研究所

共催: 一般社団法人防災教育普及協会

後援: 消防庁、文部科学省、国土交通省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、日本赤十字社、全国都道府県教育委員会連合会、日本PTA全国協議会、防災未来賞ぼうさい甲子園事務局



河川
基金

公益財団法人河川財団による
河川基金の助成を受けています。



2020 年度防災教育交流フォーラム



～新型コロナ禍の防災教育—新たなまなび・続けるまなびのチャレンジ～

日時	プログラム	講演講師・発表者(敬称略)
防災教育交流会 ぼうさいこくたい 2020[SS-02] 10月3日(土) 11:00-12:30	<テーマ> 新型コロナ禍で育まれた生きる力に関する実践事例	
	基調講演	戸田 芳雄 学校安全教育研究所 代表/日本安全教育学会 理事長
	パネル ディスカッション	コーディネーター: 林 春男 国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事長 河田 恵昭 阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター センター長 パネリスト: 益田 紗希子 ミラクルウィッシュ 幾島 浩恵 上富田ふれあいルーム 長屋 和宏 吾妻学園おやじの会 古賀 元博 南阿蘇村立南阿蘇中学校 齋藤 朝子 埼玉県立日高特別支援学校 田中 良典 滋賀県立彦根工業高等学校

日時	プログラム	発表団体(敬称略)
中間報告会 10月4日(日) 10:00-12:00 ※防災教育チャレンジプラン 独自開催	実践団体発表・意見交換	【2020年度防災教育チャレンジプラン実践団体】 全12団体 京都府立東稜高等学校キャリアコースライフマネジメントクラス 岐阜県立大垣特別支援学校 北海道標津高等学校 愛知県立豊橋特別支援学校 NPO 法人 i-care kids 京都 愛知県刈谷市井ヶ谷町内会体育部 ガールスカウト東京都第 172 団 佐野日本大学短期大学防災チーム 愛媛県立宇和島東高等学校 新居浜市立金栄小学校 呉工業高等専門学校 名古屋市立工芸高等学校 都市システム科 “ひと”と“まち”づくり協創ワーキンググループ

※今年度の中間報告会は防災教育チャレンジプラン関係者のみでの開催となります。開催の様子については、後日、HP 上での公開を予定しております

■ 発表・講演等の記録について

- ・防災教育交流フォーラムの記録のため、事務局にて音声の録音、ビデオ撮影、写真撮影を行います。また、これら資料はデータベース化し、防災教育チャレンジプラン関連の媒体（ホームページ、パンフレット、報告書等）への掲載、または関係者への提供を行うことがありますので、ご了承ください。



防災教育交流会



～新型コロナウイルス禍で育まれた生きる力に関する実践事例～

ぼうさいこくたい 2020[SS-02]

10月3日(土)

11:00 開会	
11:01 開会挨拶	
防災教育チャレンジプラン実行委員長	林 春男
内閣府政策統括官(防災担当)付 参事官(普及啓発・連携担当)	中尾 晃史
11:05 基調講演	
学校安全教育研究所 代表/日本安全教育学会 理事長	戸田 芳雄
11:25 パネルディスカッション	
コーディネーター : 林 春男	国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事長
河田 恵昭	阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター センター長
パネリスト : 益田 紗希子	特定非営利活動法人ミラクルウィッシュ
幾島 浩恵	上富田ふれあいルーム
長屋 和宏	吾妻学園おやじの会
古賀 元博	南阿蘇村立南阿蘇中学校
齋藤 朝子	埼玉県立日高特別支援学校
田中 良典	滋賀県立彦根工業高等学校
12:27 閉会挨拶	
防災教育チャレンジプラン実行委員長	林 春男
12:30 閉会	

基調講演講師の紹介



戸田 芳雄 (とだ よしお)

学校安全教育研究所 代表
日本安全教育学会 理事長

一略歴

山形県出身。山形県小中学校教員・教育庁指導主事、文部科学省教科調査官、スポーツ・青少年局体育官、国立淡路青少年交流の家所長、東京女子体育大学教授等を経て現職。文部科学省では安全教育及び危機管理を担当。

一主な受賞

19年日本安全教育学会功労賞

一主な著書

『新しい体育科の授業を創る』（明治図書）、『新しい保健体育科の授業を創る』（明治図書）、『子どもの安全と危機管理』（第一法規）、『新訂版 学校保健実務必携 第5次改訂版』（第一法規）、『新養護概説』（第11版；分担執筆）（少年写真新聞社） など著書多数

MEMO



コーディネーターの紹介



林 春男 (はやし はるお)

国立研究開発法人防災科学技術研究所
理事長

一 略歴

1951年東京都生まれ。専門は社会心理学、危機管理。早稲田大学大学院修士課程修了後、1983年カリフォルニア大学ロスアンゼルス校より博士号(Ph.D.)取得。京都大学防災研究所教授を経て、2015年10月1日より現職。

一 主な受賞

2013年9月防災功労者内閣総理大臣表彰受賞。

一 主な著書

『いのちを守る地震防災学』(岩波書店)2003、『しなやかな社会の挑戦』(日経BPコンサルティング)2016 など著書多数。

一 主な社会活動

文部科学省科学技術・学術審議会 専門委員、日本学術会議連携会員、内閣府・防災教育チャレンジプラン実行委員長等。市町村議会議員特別セミナー、震災対策技術展、防災産業展等での講演実績。



河田 恵昭 (かわた よしあき)

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
センター長

一 略歴

工学博士。専門は防災・減災・縮災。現在、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長(兼務)のほか、京大防災研究所長を歴任。京都大学名誉教授。現在、中央防災会議防災対策実行会議委員。日本自然災害学会および日本災害情報学会会長を歴任。

一 主な受賞

2007年国連SASAKAWA防災賞、09年防災功労者内閣総理大臣表彰、10年兵庫県社会賞受賞、14年兵庫県功労者表彰、16年土木学会功績賞、17年アカデミア賞受賞。

一 主な著書

『日本水没』(朝日新書)2016、『新時代の企業防災～3.11の教訓に学ぶ地震対策～』(中災防新書)2013、『津波災害一減災社会を築く』(岩波新書)2010、『これからの防災・減災がわかる本』(岩波ジュニア新書)2008、『都市大災害』(近未来社)1995 など著書多数

パネリストの紹介

特定非営利活動法人 ミラクルウィッシュ



あべの親子防災部～乳幼児を抱える家庭向けに防災啓発～



活動紹介

2014年から活動をスタートしました。
2020年から法人として兵庫・大阪で活動を行っています。
「こんなことをしてみたい」、「あったらいいな」と思うことを仲間と考え具現化することで、「地域で支えあえる人との出会いや支えあいの仕組みづくり」の場を作り、「さんだ女子防災部」の他、ママのやりたいことを応援する「ミラクルママ講師」、子どもたちがお金の仕組みや大切さを体感できるイベント「子ども店長」等を企画開催し地域貢献に努めています。

2019年11月～「あべの親子防災部」を立ち上げ、大阪市阿倍野区でも地域に住む親子と一緒に活動を行っています。乳幼児を抱えた家庭が災害時に自身の命とわが子の命を守れるようになることを目的としています。今年度は、SNSやオンラインでの活動を中心におこない、横のつながりや、地域のつながりを強化しています。



所在地

大阪府大阪市
兵庫県三田市

上富田ふれあいルーム



「季節のイベント防災」 防災は特別なものではなく、当たり前なもの



活動紹介

上富田ふれあいルームは、放課後子ども教室として、朝来（あっそ）小学校の3～6年生が、土曜日に2時間朝来児童館に集まり（年間36回）、手芸、工作、切り絵、季節の行事、海外の行事、防災教室等を楽しんでいます。子どもエコクラブ（あっそ児童館エコクラブ）にも登録し、リサイクル工作や、環境問題も学習しています。施設への慰問、町の防災訓練にも参加し、子ども達が災害時に役立つ工作を一般の方に教えてくれています。

毎月の季節の行事に、防災に必要な知識と体験を取り入れることで、自然に楽しく、防災を学べる活動中。実際の災害時に自分たちに何が出来るかを、具体的に考え行動できる、避難所では要配慮者に気づき、声をかけることができる小学生をめざします。

防災教育チャレンジプラン 2018年度「完成版 上富田ふれあいルーム防災年間計画！」が「防災教育大賞」受賞。

「季節のイベント防災カレンダー」には160種の防災プログラムのうち、100種の紹介をしています。



所在地

和歌山県上富田町



吾妻学園おやじの会

☆☆☆ 児童・生徒と地域で作る防災ツール「吾妻学園防災手帳」☆☆☆

活動紹介

「吾妻学園おやじの会」は、つくば市立吾妻小学校・吾妻中学校（小中一貫教育校「吾妻学園」）の保護者とそのOB・OGによるボランティア団体です。本会では、学校泊や食事作りを通じて災害が発生した非常時を疑似体験し、必要なスキルおよび知識を身につけ、危機対応能力を高めることを目的とした【学校防災キャンプおよび炊き出し訓練】などを実施し、これらの成果は、災害時にとるべき行動などについて記載した携行資料「吾妻学園防災手帳」としてとりまとめ、地域内の全小中学生に配布しています。

また、入学間もない小学1年生を対象に、【親子防災授業】を「吾妻学園防災手帳」を活用して本会メンバーが先生となって実施し、地震発生時に自らが身を守るための行動や登下校中に地震に遭遇した時の待ち合わせ場所などについて、家族で考えていただく機会を設けています。

本活動より、2017年防災教育チャレンジプラン防災教育優秀賞を受賞。

所在地

茨城県つくば市



南阿蘇村立南阿蘇中学校

☆☆☆ 熊本地震から4年～復興から伝承へ～ ☆☆☆

活動紹介

南阿蘇村は阿蘇カルデラの内側に位置し、豊富な水量を誇る白川水源、現在も火山活動を続けている阿蘇中岳など、自然環境が豊かな地域です。南阿蘇中学校は、平成28年に村内3中学校（長陽・白水・久木野）が統合し、新設校として開校しました。その開校式の1週間後に熊本地震に遭い、校区内にある阿蘇大橋の崩落、俵山トンネルが被災し、校区が分断されました。避難所や臨時の寄宿舍、校区外の避難施設などで生活していた生徒もいました。そのような経験をした生徒たちが、自分たちの経験をもとに南阿蘇中学校版避難所運営訓練（リアルHUG）を中心に防災教育に取り組んでいます。

本校の防災学習の特色としては、①全ての教科で行う防災基礎講座、②全校縦割り班を作り、3年生がリーダーとして活動する全校防災学習、③避難所運営訓練（リアルHUG）、④エコノミークラス症候群を予防するための「くまモン体操」の啓発の取り組みがあります。

所在地

熊本県南阿蘇村



埼玉県立日高特別支援学校

☆☆☆ 車椅子の視点から～かわせみ防災プロジェクト～ ☆☆☆

活動紹介

所在地

埼玉県日高市

本校は埼玉県西部にある肢体不自由特別支援学校である。2015年度 CP 実践団体の後も継続して取り組んでいる。

本校独自の「かわせみ防災タイム」は児童生徒の年齢や実態に応じた学習内容で取り組んでいる。学習の成果を文化祭だけでなく、福祉祭りや地域の復興支援イベント等、校外でも発表するようになった。今年度は2か月の休校時に『伝言ダイヤルの使い方』と地震の時の身の守り方『忍者の教え』をYouTubeで配信し、学校再開後の防災学習にも活用している。

「防災体験プログラム」も本校のみならず地域や行政らの多くの協力を得て、規模を拡大・充実させてきた。7回目の今年度はコロナ禍ということもあり、ZOOMを使ったオンライン開催とした。これまで同様に行政や専門家、県内の特別支援学校の教職員・保護者だけでなく、県外の特別支援学校からも多く参加し、防災クイズやグループワーク等を行った。

今後もオンラインやインターネット等を活用し、取り組みを継続させながら、新しいつながりを基に本校の防災を発展させる計画をしている。



滋賀県立彦根工業高等学校

☆☆☆ 防災かまどベンチづくり ☆☆☆

活動紹介

所在地

滋賀県彦根市

「かまどベンチ」は、通常はベンチとして利用し、非常時には炊き出し用のかまどとして活用する防災設備です。本校生徒が小学校や公園（避難場所）、地域の施設などに出かけ、現地調査、基礎作り、レンガ積みなど、手作りで製作する“彦工方式”として実践してきました。特徴は、かまどベンチの製作活動にとどまらず、製作前の交流や製作後の炊き出し交流など一連の多様な活動を通して、児童生徒や地域の方々と製作と継続性のある交流をすることです。異年齢の交流を通して豊かな心やコミュニケーション能力を培うことに加え、災害時に欠かせない人と人、地域と学校との「つながり」や「絆」を深めています。活動の魅力は、かまどベンチを「協働で手作り」する過程で、防災・減災が他人事ではなく、我が事、我が物と感じられる活動となり、かまどベンチを介して、防災活動への参加契機や、人のつながり輪の広がり、知恵や技の継承などの多様な効果です。





☆☆☆☆ 中間報告会 ☆☆☆☆

防災教育チャレンジプラン独自開催

10月4日(日)

10:00 開会				
10:00 開会挨拶				
防災教育チャレンジプラン実行委員長 内閣府政策統括官(防災担当)付 参事官(普及啓発・連携担当)		林 春男 中尾 晃史		
10:05 今年度の趣旨・概要の説明				
防災教育チャレンジプラン実行委員		中川 和之		
10:15 ブレイクアウトルーム(実践団体発表・意見交換)				
ブレイクアウトルーム方式で実施 ※下記、防災教育チャレンジプラン実践団体(12 団体)と防災教育チャレンジプラン実行委員が各ルーム内で 意見交換を行います				
	<ROOM1>	<ROOM2>	<ROOM3>	<ROOM4>
進行役	防災教育チャレンジプラン実行 委員 木村 玲欧	防災教育チャレンジプラン実行 委員 諏訪 清二	防災教育チャレンジプラン実行 委員 中川 和之	防災教育チャレンジプラン実行 委員 船木 伸江
内容	・各団体によるPPT発表(各1 ~2分程度) ・意見交換会	・各団体によるPPT発表(各1 ~2分程度) ・意見交換会	・各団体によるPPT発表(各1 ~2分程度) ・意見交換会	・各団体によるPPT発表(各1 ~2分程度) ・意見交換会
<p><2020 年度防災教育チャレンジプラン実践団体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府立東稜高等学校キャリアコースライフマネジメントクラス ・岐阜県立大垣特別支援学校 ・北海道標津高等学校 ・愛知県立豊橋特別支援学校 ・NPO 法人 i-care kids 京都 ・愛知県刈谷市井ヶ谷町内会体育部 ・ガールスカウト東京都第 172 団 ・佐野日本大学短期大学防災チーム ・愛媛県立宇和島東高等学校 ・新居浜市立金栄小学校 ・呉工業高等専門学校 ・名古屋市立工芸高等学校 都市システム科 “ひと”と“まち”づくり協創ワーキンググループ 				
11:30 クロージングセッション(議論の共有・まとめ)				
防災教育チャレンジプラン実行委員		木村 玲欧、諏訪 清二 中川 和之、船木 伸江		
11:55 全体講評				
防災教育チャレンジプラン実行委員長		林 春男		
12:00 閉会				

実践団体の紹介

京都府立東稜高等学校キャリアコースライフマネジメントクラス

プラン名 実践マネジメント（京都東稜のぼうさい普及活動）

応募部門 高等学校の部

所在地 京都府伏見区



一目的・特徴等

京都で唯一の防災教育カリキュラムを導入した本校ライフマネジメントクラスが、授業の中で学習した内容をインプットし、その内容を発展的に探究することで学校、地域に向けてアウトプットを行う。

一団体/プラン紹介

- ①高校生が日頃の学習活動を通じて自ら地域の小・中学校で実践できるワークショップを企画！
- ②防災を切り口にした家族間のコミュニケーション力を深め、家族の共助力、自助力を高めるワークショップを地区の防災訓練で実践！
- ③京都という地域性を活かした文化財を災害から守る取り組みを紹介し、防災活動だけでなく、歴史への興味・関心を深める活動を実践！
- ④自転車通学の割合の高い本校で、自転車交通安全に関するCM作成を行い注意啓発を実践！
- ⑤本校の避難訓練の実施要項を生徒たちが作成し、上記の学習内容を全校に向けて発信し、消防局と連携した活動を実践！
- ⑥学習アプリを活用し防災ジャーナルを配信し、防災に関する様々な情報を本校生徒・保護者に向けて発信し、校内の防災意識を高める活動を実践！



岐阜県立大垣特別支援学校

プラン名 守ろう自分の命、家族の命 ～高める防災力の輪～

応募部門 児童生徒・保護者
地域住民・職員

所在地 岐阜県大垣市



一目的・特徴等

学校・家庭・地域の繋がりある防災力を一つの輪と考え、一つ一つの防災力を高め、防災力の輪を強化し、災害発生時、命を守り抜くことができるように、三つの分野に分けて防災教育に取り組む。

1. 学校防災計画（災害対策マニュアル）を職員に周知徹底する取組
2. 児童生徒の防災学習や家庭への情報発信方法を工夫し、児童生徒及び家庭の防災力を高める取組
3. 地域との連携を深める取組

一団体/プラン紹介

1. 学校防災計画（災害対策マニュアル）を周知徹底する取組
 - ・職員を対象とした、学校防災計画の内容に関する「防災力テスト」を毎月実施
2. 児童生徒及び家庭の防災力を高める取組
 - ・生活単元学習での防災学習
 - ・年2回の保護者アンケート（家庭の減災力テスト）実施と結果に沿った情報提供
3. 地域との連携を深める取組
 - ・地域住民との合同研修会（当校を避難所と想定したHUG）





北海道標津高等学校

プラン名 標津高校防災活動協働プロジェクト

応募部門 高等学校の部
大学・一般の部

所在地 北海道標津町



一目的・特徴等

高校生が主体となり、町役場、行政及び地域住民と連携し、「高校生が町を守る」ことを意識させ、主体的に行動できる地域防災リーダー育成に取り組む。2019年度に作成した「オリジナルHUG」を地域に普及させるために、地域を巻き込んだHUGやREAL HUG（避難所開設シミュレーション及び避難所体験）を行い、有事の際のスムーズな避難所開設を目指す。また、高校生が主体となり、防災活動を小中学生に普及させることにより、町内で一貫した防災教育の浸透を図り、非常時に適切な行動をとることができる児童生徒の育成に貢献し、地元愛を持った児童生徒の育成を図ることを目的とする。



一団体/プラン紹介

本校は、北海道標津町内にある全校生徒数 146 名の小規模校で、洪水、高潮、雪害、津波被害の想定される地域に位置しています。本校生徒会では、HUG を取り入れた防災の取組を実施、さらに町主催の防災訓練に協力をしてきました。近年は、被災地へのボランティア参加や現地視察研修を実施しました。また、本校の避難所としての機能を確認するために避難所設営訓練を実施し、防災意識の向上に努めてきました。生徒会交流も実施しており、釧路管内の高等学校や隣接する羅臼高校との交流会を重ね、活発な生徒会活動を実践しています。

愛知県立豊橋特別支援学校

プラン名 とよまつ学(まな)防災(ぼうさい) ～地域・家庭・学校の防災の和～

応募部門 小学校～高等学校の部

所在地 愛知県豊橋市



一目的・特徴等

1. 児童、生徒、職員一人一人が防災について学び、自然災害等の危険に際して自らの命を守り抜く力、考え行動できる力を養う。
2. 「共に生きる」「社会に役立つ」意識を高め、地域と連携した持続可能な防災教育を実施する。

地域と連携した防災活動や実践的な訓練に取り組む。寄宿舎での避難所体験をして課題や問題点を明確にする。車椅子児童生徒の的確な避難の仕方や校内環境整備をする。



一団体/プラン紹介

本校は、肢体不自由を対象とする小学部、中学部、高等部からなる特別支援学校である。近年障害の重度重複化、多様化が進み、日常生活での活動範囲が限られる児童生徒が増えている。激甚災害に備えて、備蓄食を児童生徒の実態に合わせて7日分備えている。防災訓練を継続的に取り組むことで、児童生徒たちが主体的に自分の身を守る行動ができるようになってきている。平成31年1月には、ユネスコスクール加盟申請を行い、ESD活動の一環に防災教育を位置づけ学校全体で防災体制を整えている。



NPO 法人 i-care kids 京都

プラン名 医療的ケア児と家族のための防災チャレンジ

応募部門 園児・保護者

所在地 京都府京都市



一目的・特徴等

近年、新生児医療の発達とともに、人工呼吸器や胃ろうなどの医療デバイスを使用しながら生活している子どもたちが急増しており、全国に19,000人ほどいると言われている。災害時にこのような子どもたちは医療機器とともに避難したり、電源の確保をしたり、非常食も個々の子どもたちが摂取できるものでなければならないなど、健常児と比べて様々な配慮が必要である。小規模保育園キコシは医療的ケア児を積極的に受け入れる保育園として2020年4月に開園し、3名の医療的ケア児と4名の医療的ケアの必要はないけれど、重度の障害を抱える子どもたち計7名が通園している。災害時に子どもたちの命をいかに守れるのか、日ごろから災害に対する準備をどのようにしておくのか、災害時に医療、福祉、療育、行政等の関係者といかに連携をとれるのか、家庭及び支援者に向けた防災への啓蒙活動をいかに進めていくのか、たくさんの課題があるが、最大限の準備・対策を行えるように日々手探りでチャレンジを進めている。



消防署との救急救命講習

一団体/プラン紹介

- ① 非常時持ち出し袋の作成や避難計画の作成
- ② 小規模保育園キコシでの月1回の避難訓練の実施
- ③ 地域の警察署、消防署、行政との連携
- ④ 保護者への啓蒙活動

愛知県刈谷市井ヶ谷町内会体育部

プラン名 教員養成大学の学生を育てる防災教育年間プログラムの開発
一町内防災運動会をとおした「地域発」の学び一

応募部門 大学・一般の部

所在地 愛知県刈谷市



一目的・特徴等

本プランの活動のねらいは、地域の指定避難所でもある教員養成大学の学生が、町内防災運動会をはじめとする地域の行事に参加することをとおして災害に遭遇した際に必要となる防災に関する知識を身につけ、地域防災の担い手として活躍できるための支援を行うことである。従前の防災運動会の競技を見直し新設の競技を学生と協働で開発・実践する活動を行うとともに、活動を防災教育年間プログラムに展開することにより、地域住民・学生双方の防災意識の向上を図ることを目指す。



一団体/プラン紹介

井ヶ谷町は愛知県刈谷市北部に位置しており、町内に本プランの交流相手としての教員養成大学を有する。人口5,904人（令和2年5月現在）に加えて、学生・教職員5,000人近くが在籍する。刈谷市内には23の自治会があるが、井ヶ谷町内会はその中でも活動が盛んな地域のひとつである。体育部は町内会の有志により組織されたもので、現在約25名が活動している。町内に大学が移転して50年が経過しており、住民には生活のさまざまな場面で学生の成長にかかわってきたという気持ちを持つものも多い。このような井ヶ谷地域住民の「思い」を本プランの原動力として実践に高めていきたい。





ガールスカウト東京都第 172 団

プラン名 ガールスカウトのチカラで防災女子を増やそう！

応募部門 高等学校の部

所在地 東京都練馬区

一目的・特徴等

災害対応力を強化するためには、女性の視点が必要です。そのため、女子高校生スカウトが、地域の皆さんに向けて、防災・減災教育を発信します。新型コロナウイルス感染拡大防止の中でも、彼女たちがこれまでのスカウト活動で築いてきた地域と組織のネットワークを通じて、スカウトならではの効果的な啓発活動を展開します。

一団体/プラン紹介

- ①地域住民の皆さんに、平常時から外出時に「防災ポーチ」を持つ減災の啓発活動をします
- ②地域のこども新聞で、防災知識の広報をします
- ③新型コロナウイルス感染症拡大防止のために防護服を手作りして寄付します
- ④ガールスカウトのネットワークを生かして行政へ意見、全国へ広報し「防災女子」を増やします



佐野日本大学短期大学防災チーム

プラン名 多分野を生かした防災教育の取り組み

応募部門 大学・一般の部

所在地 栃木県佐野市

一目的・特徴等

1. 本学における避難所開設手順をまとめ、地域貢献の一助とする避難所開設手順をまとめ、手引書を作成する(学生)。防災教育、避難訓練等の教材を開発する(教員)。学生主体で取り組み、防災意識向上及び社会人として就職した先での防災意識定着に役立てる。
2. 本学の専門性を活かした災害時の支援を身に着け、防災知識を得た専門職、就職先へのアピールポイントとする。就職先から広く防災意識向上に役立てる。

一団体/プラン紹介

本学は、平成2年に開学した短期大学です。開学以降、常に時代のニーズに対応した学問を備え、社会から求められる人材教育を行ってきました。平成22年総合キャリア教育学科開設以降は、学生が将来希望する職業に就くために必要な知識・技能を身につけることができる教育を推し進め、地域社会で活躍する人材を輩出してきました。

今回のチャレンジを通し、災害が日常となりつつある現代社会で貢献できる優秀な人材育成を行い、地域との連携をさらに深めるとともに、より実践的なカリキュラムへと「学び」を進化させたいと考えます。



愛媛県立宇和島東高等学校

プラン名

「学ぶ」から「教える」「育てる」へ
～小さな“防災士”がつなぐ地域の防災～

応募部門

高等学校の部

所在地

愛媛県宇和島市



一目的・特徴等

本校の立地する宇和島市文京地区は5つの学校と1つの幼稚園が近接しており、合同避難訓練や学習会が行われています。本校は、その学びの場を発展させて、『高校生が学ぶだけでなく、小中学生にその学びを広げる』ことに挑戦し、地域全体の防災力向上に努めています。

一団体/プラン紹介

多くの高校生が防災について学ぶ場をできるだけ多く持つことで、学校・地域の防災力向上に寄与できる／防災士の資格取得を目指すことで、防災に関する学習がより深化される／高校生が小中学生に教えることで、高校生に地域防災を担う人材であるという自覚を持たせることができる／小中学生が防災について学ぶことで、以後の防災学習の啓発となる／小中学生が防災について学ぶことで、地域の防災意識を高めることができる。



新居浜市立金栄小学校

プラン名

金栄小学校災害タイムライン
～My タイムラインの実行と避難率向上を目指せ～

応募部門

小学校高学年の部

所在地

愛媛県新居浜市



一目的・特徴等

【目的】

- 1 金栄小学校災害タイムラインの実行と避難率の検証を行う。
- 2 学校防災を継続し、自分の命を守り、自助、共助で生き抜くことを身に着ける。
- 3 金栄校区で発生した台風災害による被災体験を次世代に継承させ、平成 16 年災害を絶対に風化させない。

【特徴】

- 1 毎年体系的な防災教育を実施することにより、小学生の防災力の向上につなげ、金栄小学校災害タイムラインを活用して地域の避難率の向上を図り、人的被害の軽減につなげる。

一団体/プラン紹介

地域住民と過去の自然災害による被災体験から得た教訓を生かし、保護者、地域住民とともに防災力の向上を目的としています。今年度作成した、金栄小学校災害タイムラインを活用し、自然災害時の避難率向上を目標として、防災学習に取り組み、一人の被害を出さないためにも、金栄校区一丸となって避難率の向上を図ります。





呉工業高等専門学校

プラン名 3D マップによる小中学校向け防災教育

応募部門 小学校高学年～高等学校の部、大学・一般の部

所在地 広島県呉市



一目的・特徴等

呉高専の学生が、小中学校と連携して児童生徒と一緒にジグソーパズルを組み立てる感覚で、地形の特徴を認識しながら3D地形模型を作り、防災教育に活用します。2017年度防災教育チャレンジプランで実践した内容をバージョンアップし、材料の切断はすべてレーザー加工機を使って、小学生でも速く安全に簡単に作れ、さらに解体収納もできる3Dマップを提供。2019年度から5年間で呉市立小中学校全62校での防災授業実施を目標に活動しています。

一団体/プラン紹介

呉高専では、2015年から学年学科を超えた学生チームでプロジェクトを遂行する「インキュベーションワーク」という授業を行っており、現在80の学生主体のプロジェクトが動いています。3Dマップ製作チームでは、GISとレーザー加工機による3D地形モデル製作とそれを使った防災活動を行っています。

<https://www.facebook.com/3DMapKureKosen/>
2019年度「初等中等教育における地理情報システム(GIS)を活用した授業に係る優秀事例表彰」 地理情報システム学会賞 受賞



名古屋市立工芸高等学校 都市システム科 “ひと”と“まち”づくり協創ワーキンググループ

プラン名 “いのち”をつなぐ戦い
～Evacuationの一般化が大切な人のいのちを繋ぐ～

応募部門 高等学校の部

所在地 愛知県名古屋市



一目的・特徴等

本校は、名古屋市東区と北区との境界線に隣接しており、本校周辺は、その境界線を介して南北に大きく標高が異なるという特徴があります。特に、標高が低い北側では、豪雨時に浸水害の発生が指摘されています。

そこで、本プランでは、「浸水害の危険性」と「災害から命を守るための避難の重要性」に焦点を当てた研究開発やワークショップの開催などを通して、地域の方々にその成果の還元や早期避難を促すための活動に取り組みます。

一団体/プラン紹介

本校都市システム科は、活力ある、しなやかなまちづくりを考えるための勉強、そしてそこで得た成果を基に、様々な活動を通して、社会に積極的に発信する土木系学科です。

これまでの様々な活動を通して、「誰もが安全安心に住まうまちづくり」や「地域や住民の方々とともにまちをつくること」の大切さを学びました。ここでの経験を活かし、より安全安心なまちを目指し、災害の危険性や早期避難の重要性を地域やそこに住まう方々に対して、効果的にアピールできる取り組みの在り方を、本プランを通して探求したいと考えています。



防災教育チャレンジプランとは？

■ 防災教育チャレンジプランの目的

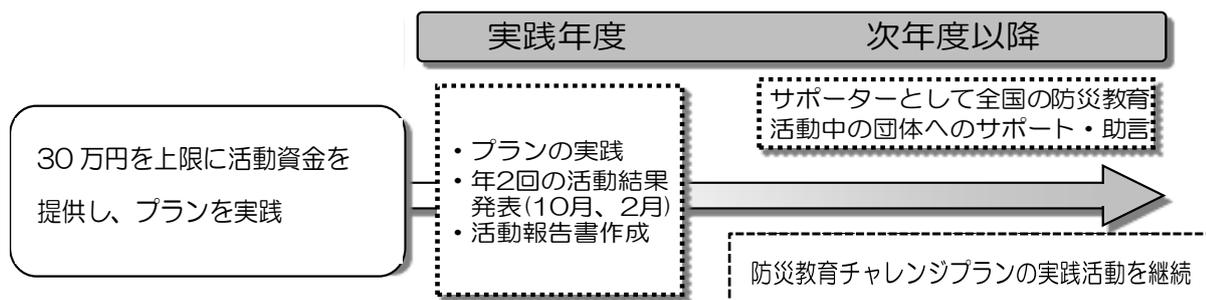
国内外で大規模な災害が起きている昨今、またいつ災害がやってくるかわかりません。防災教育チャレンジプランは、このような災害に備え大切な命を守り、できるだけ被害を減らし、万が一被害があった時すぐに立ち直る力を一人一人が身につけるため、全国の地域や学校で防災教育を推進するためのプランです。

全国各地の防災教育への意欲をもつ団体・学校・個人等に対し、より充実した防災教育のプランを募集し、「防災教育チャレンジプラン」として選出した上で、その実践への支援を行います。

1年間の実践の後、その実践例や支援した取り組みの内容を活動報告会を通じて広く公開・共有するとともに優れた実践の表彰を行うことで、全国の防災教育に取り組む団体・学校・個人やそのプランに光をあて、各地域で自律的に防災教育に取り組むことのできる環境づくりを目指します。



■ 防災教育チャレンジプラン実践団体の構成と実践スケジュール





実行委員の紹介

(委員長)

林 春男	国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事長
市川 啓一	株式会社レスキューナウ危機管理研究所 代表取締役
井上 浩一	防災ネットワークプラン 代表
鍵屋 一	跡見学園女子大学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科 教授
金田 義行	香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 副機構長・地域強靱化研究センター長・学長特別補佐・特任教授
木村 玲欧	兵庫県立大学環境人間学部・大学院環境人間学研究科 教授
国崎 信江	株式会社危機管理教育研究所 危機管理アドバイザー
栗田 暢之	認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード 代表理事
齊藤 清一	特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク 事務局長
酒井 慎一	東京大学大学院 情報学環・学際情報学府 教授
佐藤 公治	南三陸町立歌津中学校 主幹教諭
佐藤 健	東北大学災害科学国際研究所情報管理・社会連携部門災害復興実践学分野 教授
澤野 次郎	災害救援ボランティア推進委員会 委員長
諏訪 清二	防災学習アドバイザー・コラボレーター
瀧川 猛	千葉県立市原特別支援学校 教頭
中川 和之	株式会社時事通信社 解説委員
中村 一樹	国立研究開発法人防災科学技術研究所イノベーション共創本部 共創推進室 室長
平田 直	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 首都圏レジリエンス研究推進センター センター長 兼 東京大学地震研究所特任研究員
福和 伸夫	名古屋大学減災連携研究センター センター長・教授
船木 伸江	神戸学院大学現代社会学部社会防災学科 准教授
舟生 岳夫	セコム株式会社 IS 研究所リスクマネジメント G 主務研究員
松尾 知純	防災ゲート・パートナーズ 代表
三浦 伸也	国立研究開発法人防災科学技術研究所防災情報研究部門 主幹研究員
南島 正重	東京都立両国高等学校附属中学校 主幹教諭
粟井 明彦	文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課 安全教育推進室長
五島 政一	国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部 総括研究官
齋藤 憲一郎	文部科学省研究開発局地震・防災研究課 防災科学技術推進室長
里村 真吾	国土交通省水管理・国土保全局防災課 防災企画官
中尾 晃史	内閣府政策統括官（防災担当）付 参事官（普及啓発・連携担当）
名越 一郎	消防庁国民保護・防災部防災課 地域防災室長
矢崎 剛吉	内閣府政策統括官（防災担当）付 参事官（調査・企画担当）

(2020年9月8日現在、所属役職別 50音順、敬称略)

防災教育チャレンジプラン募集の御案内

1. 募集の概要

防災教育チャレンジプランでは、全国で取り組まれつつある防災教育の場の拡大や質の向上に役立つ共通の資産をつくることを目的に、新しいチャレンジをサポートいたします。

そのプランの準備・実践に当たって発生する経費を支援し、実現に向けた防災教育チャレンジプランアドバイザーによる対面またはオンラインでのアドバイスや相談などの支援を行います。

応募の中から選ばれたプランは、活動計画について前年度の活動報告会で発表、さらに実践した内容について、交流フォーラム(中間報告会)と活動報告会で発表していただきます。

活動報告会においては、優秀な実践活動に対して防災教育大賞・防災教育優秀賞・防災教育特別賞を授与いたします。

これからの時代の防災教育として、オンラインやオンデマンドを活用した活動など、様々なチャレンジをサポートし、その成果はホームページなどで幅広く公開します。

2021年度の防災教育チャレンジプランでは、新型コロナ禍を新たな「まなびのきっかけ」とするチャレンジを積極的に募集します。内容としての新型コロナ禍を選ぶだけでなく、新型コロナ禍がきっかけとして生まれた「まなびのスタイル」を活用したオンライン型やオンデマンド型のチャレンジも歓迎です。

みなさんのチャレンジをお待ちしています。

サポート内容	<ul style="list-style-type: none">■プランの実践にかかる経費の提供/上限 30万円(査定による) ※活動・予算計画書の提出及び団体名義の口座が必要となります。■交流フォーラム(中間報告会)・活動報告会発表者への交通・宿泊費の支給。(1名分×3回分) ※社会情勢等によりオンライン開催となった場合はタブレット、wifiルーター等の機材を貸与します。■プランの実現に向けて、下記サポート主体が対面・オンライン問わず 助言や現地指導等の支援を行います。■防災活動の手法・事例の収集と活動情報の発信ができる各種 web ツールを提供します。
サポート主体	<ul style="list-style-type: none">■防災教育チャレンジプランアドバイザー<ul style="list-style-type: none">・防災教育チャレンジプラン実行委員・防災科学技術研究所研究員・サポーター(過去の実践団体)・その他防災教育専門家等■防災教育チャレンジプラン実行委員会事務局
表彰	<ul style="list-style-type: none">■活動プロセス及び成果に対して審査を行い、優秀な実践活動に対して、防災教育大賞・防災教育優秀賞・防災教育特別賞を決定し、表彰状と盾を授与いたします。■防災教育チャレンジプラン「サポーター」として認定いたします。

2. 応募資格

- 防災教育を一層充実させたいと考えている教育・社会福祉施設(保育施設・幼稚園・学校等)、教育委員会、NPO、民間企業、個人、地域団体(民間事業所、各種団体、行政機関)
- 採用された場合は、開催予定の実践団体決定会、中間報告会、活動報告会の計3回の会合に出席できること。

3. 応募部門(プランの対象別)

- A. 保育園・幼稚園等の部
- B. 小学校低学年の部
- C. 小学校高学年の部
- D. 中学校の部
- E. 高等学校の部
- F. 大学・一般の部

4. 応募締切

2020年11月30日(月)15:00までに応募企画書をホームページにアップロード

5. 応募方法

応募を希望される方は、ホームページ(<http://www.bosai-study.net>)より事前登録をお願いします。事前登録後に、事務局より応募用紙の電子ファイル及び提出先を案内いたします



防災教育 チャレンジプラン

- 防災教育チャレンジプラン実行委員会事務局
E-mail : cpinfo2865@bosai-study.net
- 防災教育チャレンジプランホームページ
<http://www.bosai-study.net/>

※E-mail アドレスは、予告なく変更することがあります。
最新情報は、ホームページでご確認ください。